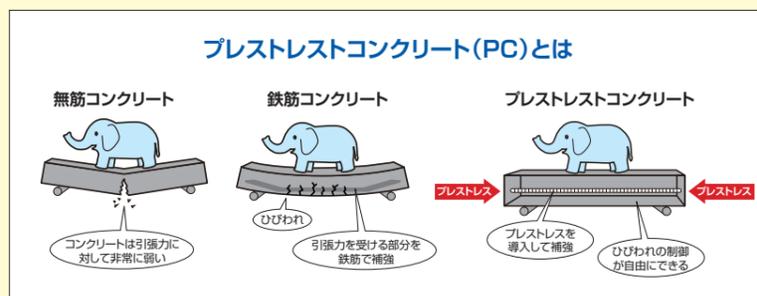




- 会社名 / 株式会社ピーエス三菱
- 設立 / 1952年3月
- 所在地 / 東京都中央区晴海2-5-24  
晴海センタービル3F

創立以来、プレストレストコンクリート(PC)技術の先駆者として、各種の建設工事に実績をあげてきた。現在、この分野での技術の優位性が認められ、国内有数のPCゼネコンとして、建設業界の中で独自の存在感を堅持している。高度な建設技術と研究・開発に力を注ぐとともに、工事の計画・立案・設計・施工までのトータルシステム化と、フレキシブルな組織の確立をめざし事業を展開している。



2011年3月に発生した東日本大震災は、巨大地震と想定を超える津波により、未曾有の大災害を引き起こした。これを受け、ピーエス三菱は今年、一萬軒を超える建物の家屋調査で支援することになった。当初は、日中に記入した家屋調査の調査票を工事事務所に持ち帰り、PCに入力する作業を想定していた。しかし、調査では一週間に6000枚の調査票の入力が必要になる。現場の事務所で入力するにせよ、調査票を東京の情報システム部に送付し入力するにせよ、大きな負担がかかる。調査が遅れば、周辺地域に影響がでることは必至で、いかに負担を軽減し、速やかに調査状況を連携するかが検討されていた。

減し、速やかに調査状況を連携するかが検討されていた。

**デジタルペン、負担を大幅軽減**

このような状況の中で、インテックの「デジタルペクラウドサービス」の導入が決まった。このサービスは既存の手書き運用を変えずに、データ入力作業を助けるソリューションである。現場で使用するペンを、デジタルペンに変更するだけで、入力作業が不要になる。

仕組みは次のとおりである。①デジタルペンの先端には小型カメラが付いており、ドットの印刷された用紙にこのペンで記入することで、軌跡をデータとして認識できる。②デジタルペン専用の設置台(クレードル)に挿入することで、PC経由でデータが送信される。③インテックのデータセンターにある文書管理システムにデータが登録され、リアルタイムにテキストデータに変換、データが蓄積される。もちろん、人それぞれの筆跡を完全に認識することは難しいため、イメージ図と変換されたデータを見比べ、担当者が編集することもできる。

**利用したい時期だけ利用できる**

「デジタルペクラウドサービス」の導入当初は、デジタルペン40本でスタートしたが、一カ月後には60本を追加、現在、100本で本格的に活用

**インテックの「デジタルペクラウドサービス」**

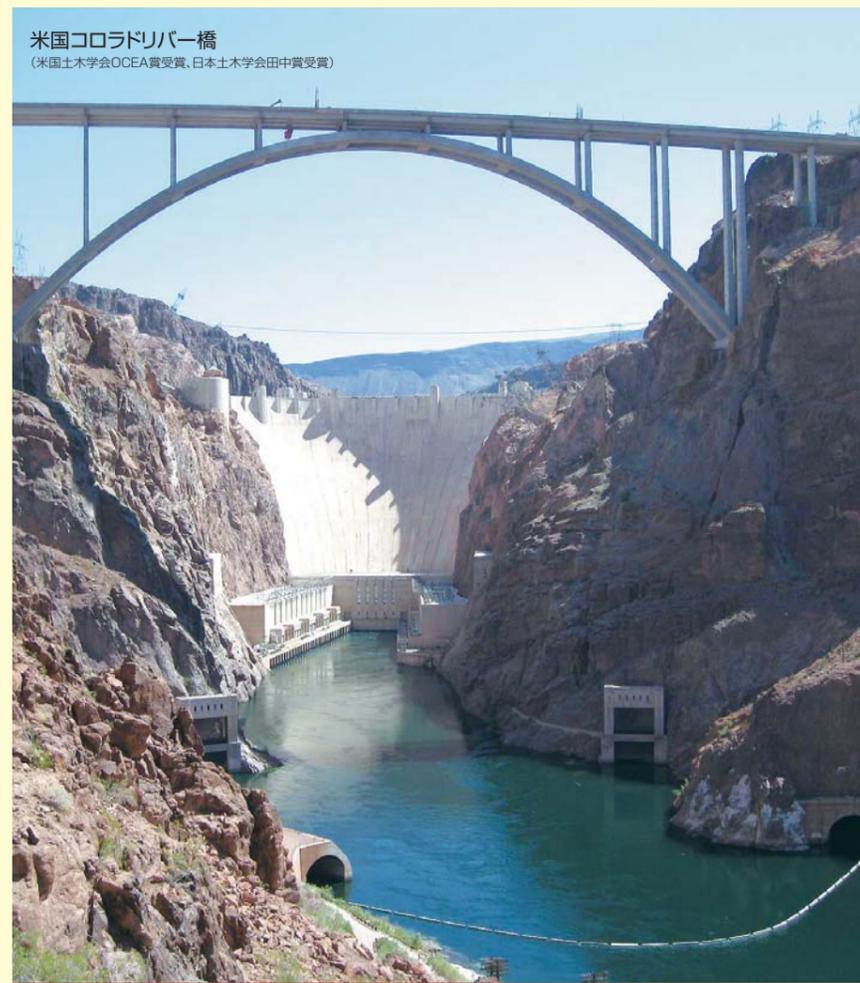
現場の手書きの情報を、デジタルペンを使うことで即時にデジタル化。作業手順を変えずに業務システムと連携できるソリューション。

総合建設業のピーエス三菱は、コンクリートに事前に力をかけることで、全体の強度を高くするプレストレストコンクリート技術を軸に事業を展開している。橋梁に代表される公共工事など「土木建設事業」と、民間工事を中心とした「建築建設事業」が2本の柱で、高強度・高品質、耐久性・耐震性に優れたプレストレストコンクリート技術を、建築や土木へ応用し、社会資本充実と地球環境の保全を目指している。この技術は、特に地震、津波等の自然災害には圧倒的な耐久性を実証しており、日本のみならず世界においても注目されている。

現場では毎日、ドットの印刷された用紙にデジタルペンで調査項目を記入し、一日の終わりに工事事務所からデータを送信している。データはインテックのデータセンターを経由し、ピーエス三菱の情報システム部へ。編集作業のあと、編集データはCSVに出力され、他のシステムと連携し分析に利用されている。

インテックの「デジタルペクラウドサービス」について、ピーエス三菱管理本部情報システム部の佐藤覚部長は「他社の製品と異なり、クラウドサービスで利用でき、自社で資産を持つ必要がないことに魅力を感じ、導入を決めた」と述べている。

現在、営業やパトロールの現場で使用することも検討されており、データ入力の手軽さを減らし、リアルタイムでデータが活用できるデジタルペンを使用することで、ピーエス三菱は、社会資本充実をいっそう支援したいとしている。



米国コロラドリバー橋  
(米国土木学会OCEA賞受賞、日本土木学会田中賞受賞)



千葉みなとウォーターフロント  
「グランスイートブルー」(PCaPC工法)



被災地でのデジタルペンによる調査



**インテックの「デジタルペクラウドサービス」  
家屋調査作業での入力負担削減、迅速なデータ活用で被災地を支援**

ピーエス三菱は被災地の家屋調査作業にあたり、インテックの「デジタルペクラウドサービス」を導入した。現場でデジタルペンを使用するだけで、作業所に戻ってからの入力作業が不要となり、データを迅速に共有し、活用ができるようになった。被災地の調査にスピード感をもって対応している。

**お客さまの声**

管理本部情報システム部長  
**佐藤 覚氏**

工事が完了すれば、次の場所に移動する建設現場。この建設現場とのネットワーク構築にあたり、インテックには導入当初からの長年おつきあいいただいています。また、建設現場とのネットワークを一元管理する当社自前のASPでもお世話になっています。このたび被災地で、1万軒を超える家屋調査の作業を実施することになりました。作業所から6万枚の調査票と60万枚のデジタル写真をリアルタイムに受信し、データセンターでデータベースシステムを構築します。これには「インテックのデジタルペクラウドサービスしかない」と私は直感しました。インテックにはきわめて短期間に導入いただき、おかげさまで安定したシステムの構築が実現しました。

Interlink with Clients